

奥矢作森林フェスティバル

矢作水源フォレストランド協議会では、ダム事業への理解と奥矢作湖及び矢作川流域間の交流、及び流域全体で環境、森林保全を共に考える催しとして奥矢作森林フェスティバルを開催しました。

本フェスティバルの開催にあたっては、矢作水源フォレストランド各地区の協力者及び矢作ダム管理所職員約40名がスタッフとして参加するとともに矢作川流域の地域住民約500名にご参加いただき、炭や間伐材を利用した各種催しにご家族で参加していただくことで楽しみながらダム湖のもつ自然豊かな空間、水源地域の重要性について知っていただきました。

また、379名の方に矢作ダム見学を通じてダムが社会生活に果たしている役割等を学んでいただきました。

なお、矢作ダム見学に参加された方には、別添『矢作ダムの仕事について』を配布し、矢作ダム管理所における取り組みや日常の仕事についても紹介させていただきました。

【日時・場所】

平成20年11月29日(土) 10:00～15:00
奥矢作レクリエーションセンター

【開催内容】

矢作ダム見学

炭窯体験

炭と親しむコーナー

間伐材工作コーナー

ランプシェード実演・即売

物産展

炭を利用したバーベキュー

もみから焼きイモ

無料豚汁

【参加者】

矢作川流域の地域住民 約500名(児童を含む)

矢作ダム見学参加者 379名



< 奥矢作湖の紅葉 >

< 会場:奥矢作レクリエーションセンター >

矢作ダム見学



紅葉と矢作ダム(上流側から見た風景)。



矢作ダム管理所職員によるダムの概要紹介や役割の説明及び各種パネルの展示見学。



エレベーターで管理所から60m地下に降りて堤体内(監査廊)を見学。



堤体から歩廊に出てダムやゲートを間近に見学。

炭窯体験



炭窯のなかをのぞいたり窯出しを体験できるコーナーを設置。

薪割りを家族で体験。

炭と親しむコーナー



炭の効果(炭を使用したろ過実験)を体験。

炭に自由に絵を描く炭ペインティングコーナーを設置。

間伐材工作コーナー



恵南森林組合にご協力いただき、間伐材工作コーナーを設置。

ランプシェード実演・即売



ランプシェードの鑑賞コーナーを設置。



ランプシェード製作の実演を実施。

物産展(水源地域の特産品)



水源地域の各種特産品を販売。



鮎の串焼き、焼き鳥なども販売。



もみがら焼きイモ



もみがらで焼いたホクホクの焼きイモを販売。

無料豚汁



冷えた体を温めていただくため、豚汁を無料配布しました。

その他



炭を利用したバーベキュー



落ち葉で遊ぶ子供達。

矢作ダムの仕事について

矢作ダム管理所では、常にダムの機能を最大限に発揮出来るようにダムの施設、貯水池、周辺の点検・整備を行っています。ここでは、私達の日常の仕事の一部を、簡単に紹介いたします。

1. ダムの運用

洪水対策



大雨により、洪水が発生した際には、ダムに流入する水の一部をためて、下流に放流する水の量を減らし、ダム下流の洪水被害を軽減させます。(これを洪水調節と言います。)

この時には、職員全員が24時間体制で洪水調節を実施します。

なお、川の近くでスピーカーやサイレンによりダムの放流開始を聞いた場合には、絶対に川には入らないで下さい。

【各係の仕事】

(総務係)

・ダム下流河川の巡視、サイレン(放流警報)が鳴っているかの確認、庁舎、職員の安全管理

(管理係)

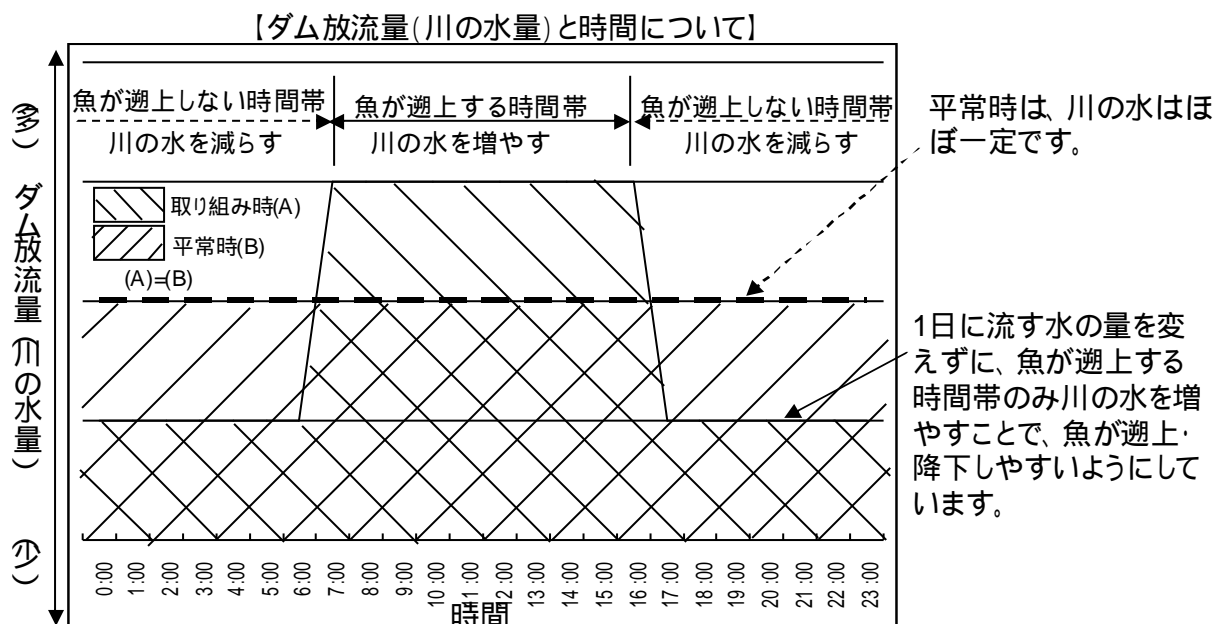
・洪水調節の計画立案、ダム操作、関係機関との連絡調整

(電気通信係)

・放流設備機器の点検、ゲート周辺の点検、電源設備の点検

生物環境改善への取り組み

ダム下流河川に、常に利水に必要な量の水を下流に補給しています。その中で、下流河川の生物環境改善のため、利水者と協力して以下のような取り組みも行っています。



2. ダム施設の点検

ダム堤体内部の設備点検(漏水量、たわみ量、揚圧力)



漏水量

漏水とは、貯水池や山に含まれている水が、ダムを浸透してきた水です。



たわみ量

この鉄線の動き(たわみ量)を確認しています。

たわみとは、ダムに掛かる水圧や気温により、ダムが変形することです。



揚圧力量

揚圧力とは、地下水がダムを押し上げる力です。

矢作ダムの内部には、ダム堤体内に浸透する漏水量(10箇所)、ダムのたわみ量(10箇所)、基礎地盤からの揚圧力を測るための設備(16箇所)が設置されています。

漏水量、たわみ量はリアルタイムで自動計測をしています。また、職員による計測・点検を、月1回以上実施しています。

電気通信設備の点検(警報装置、テレメータ、光ケーブル、発電機)



矢作ダムを適正に管理するため、河川内で釣りや水遊びなどをしている人に放流をお知らせするためのサイレン(警報装置)、ダム上流域に降る雨や河川の水位を常時計測しているデータを管理所まで無線で送る装置(テレメータ)、監視カメラの映像などを送信するための通信線(光ケーブル)、電源供給が止まった時でも管理所で発電を行い、ダムの機能が止まらないようにするための発電機などの電気通信設備が設置されています。

これらの電気通信設備が常に適正な状態にあるように職員による点検を月1回以上実施しています。

機械設備の点検(常用及び非常用洪水吐き)



矢作ダムには洪水時に下流に水を流すための放流設備(ゲート)が設置されています。このゲートが動かなくなったり、壊れたりすると、洪水時にダムから水を流すことが出来なくなり、ダムから水が溢れてしまうため、常に正常な状態を保つように職員による点検を月1回以上実施しています。

3. ダム貯水池内の管理

水質管理(定期採水、自動観測装置など)



矢作ダムから下流河川に安全な水を流すよう、ダム湖の湖心及び選択取水設備の取水口にて、常時水質を監視しています。

また、毎月1回、貯水池内(4箇所)及び上下流(10箇所)の水質を細かく分析調査し、ダム貯水池の水質の動向を把握し、水質保全に努めています。

冷水、濁水の長期化防止対策(冷水・濁水対策フェンス)

矢作ダム貯水池には、洪水による濁水の長期化軽減や、貯留水の冷水抑制のために浮沈式の冷水・濁水対策フェンスが設置されています。

【濁水対策】

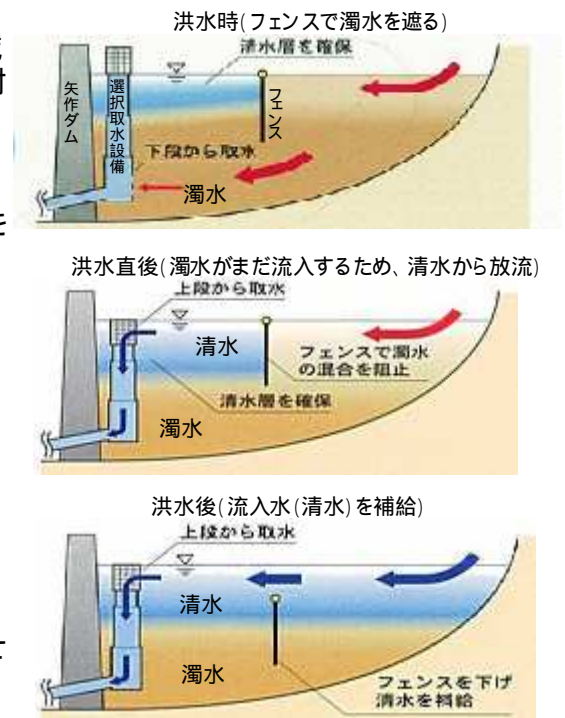
洪水時には、フェンスを浮上させて流入してくる濁水をフェンスで遮り、貯水池下層に濁水を集め選択取水設備で下層から放流して、上層に清水層を確保します。

洪水直後は、まだ濁水が流入するため、洪水時に確保した清水を使い、選択取水設備で上層から放流する事で、濁水の長期化を軽減します。

その後、流入水が清水となった時点で、フェンスを沈めて、清水を補給して下流に放流します。

【冷水対策】

上流河川からの流入水が、ダムに貯留されている水温よりも低い場合、水温が下がるためフェンスを浮上させて、冷水を遮ることにより上層の水温低下を軽減させて、この水を下流に流します。



4. ダム貯水池周辺の管理

貯水池周辺の巡視



矢作ダム貯水池周辺に異常が無いか貯水池周辺を週2回以上巡視して、ゴミの不法投棄、ダム貯水池法面の崩落、水質異常(油、薬品の流出)などが無いかチェックし、早期発見・早期対応することで、被害を最小限に食い止めています。

貯水池内の維持管理(流木処理、塵芥処理、保守点検)



台風や前線に伴う大雨により、ダム上流や周辺の山にある樹木や塵芥(ゴミ)などが、ダム湖内へ流れ込んできます。

この流木やゴミを放置しておくと、放流設備の故障や水質悪化に繋がるため、定期的に回収しています。

5. ダム学習への取り組み

ダム見学



矢作ダムをより知って頂くため、本紙(矢作ダムの仕事)掲載内容の他、ダムの堤体内やダムを操作する機械などを実際に見て頂けるよう、ダム見学を実施しています。

見学を希望される方は、当管理所ホームページ(随時)又は電話(平日8:30～17:15)で受け付けていますので、御利用下さい。(下の連絡先をご参照ください)

6. 水源地域活性化への取り組み

奥矢作森林フェスティバル(矢作水源フォレストランド協議会主催)



水源地域の自立的・持続的な活性化を目的に、平成18年3月に「矢作ダム水源地域ビジョン」を策定しました。

水源地域ビジョンを推進する組織である、矢作水源フォレストランド協議会では、下流域の方と一緒に、矢作川の水源地の森林・環境について考えることを目的とした「奥矢作森林フェスティバル」、や地域内の交流を図る、「地域交流会」などを実施しています。

7. 堆砂対策への取り組み

土砂撤去工事



矢作ダムでは、現在、貯水池内に土砂が多くなっているため、これを撤去し、ダムの機能に支障がでないよう、適正な維持管理を行っております。

〒444-2841
愛知県豊田市閑羅瀬町東畑68番地

国土交通省中部地方整備局矢作ダム管理所

TEL:0565-68-2321 FAX:0565-68-2328

Mailto: yahagi@cbr.mlit.go.jp URL: <http://www.cbr.mlit.go.jp/yahagi/index.html>

ようこそ、矢作ダムへ！！